

World Heritage 世界遺産

世界遺産富士山 「信仰の対象と 芸術の源泉」

日本一の高さを誇る富士山。2013年6月22日、「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉」の名称のもと、世界文化遺産に登録されました。

富士山は、「信仰の対象」であるとともに、「芸術の源泉」として、日本人の自然観や日本文化に大きな影響を与えてきた歴史があります。

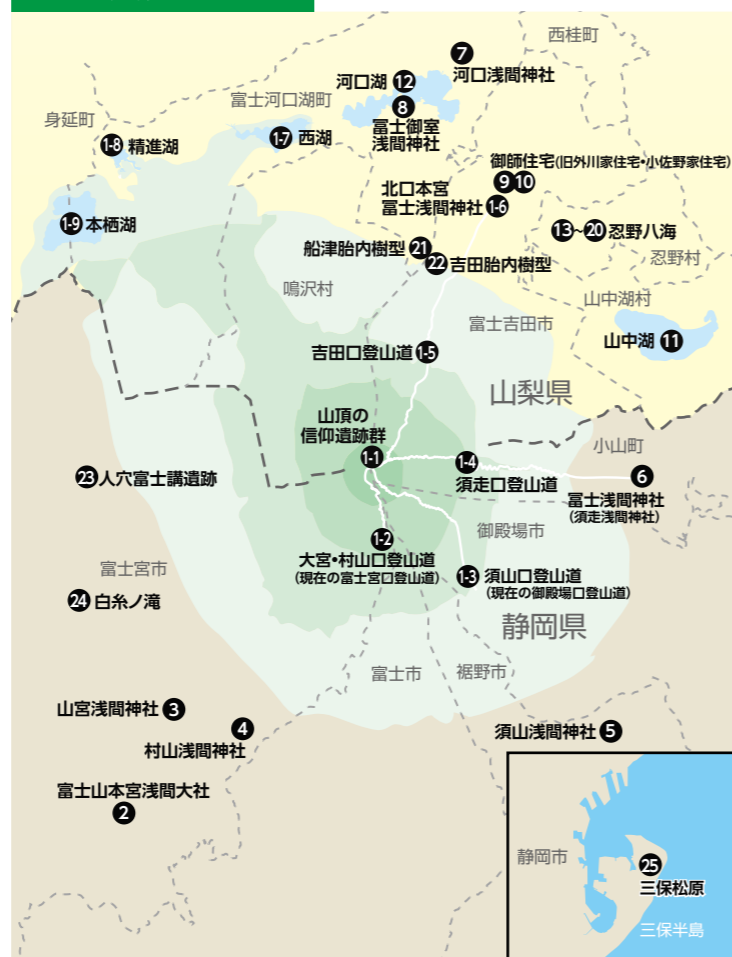
かつて富士山は、激しい噴火を繰り返す火の神として人々から畏れられていました。しかし、平安時代になり、噴火が沈静化してくると、富士山の中に入り修行する人が現れます。このような人々の信仰は一般民衆にも普及し、江戸時代になると富士講とよばれる信仰集団が爆発的に広まり、多くの人が富士山に登るようになります。また、葛飾北斎などの浮世絵のモチーフとして富士山が多用され、日本人の生活に溶け込んでいきます。人と自然が信仰と芸術を通して共生する姿は、富士山が持つ大きな特徴といえるでしょう。

このような富士山の歴史や文化にゆかりのある25の構成資産には、その山体だけでなく、周囲にある神社や風穴、溶岩樹型、湖沼などがあります。ユネスコ世界遺産委員会はこれらの価値を認め、未来に受け継ぐべき世界の宝として世界文化遺産の登録を決定したのです。



中ノ倉峠から望む富士山と本栖湖

構成資産分布図



信仰の対象



⑧北口本宮富士浅間神社

富士山信仰の聖地。富士講が富士登拝に出發すると、まずこの神社を参拝し、境内にある登山鳥居をくぐり富士山頂を目指しました。



⑨御師住宅(旧外川家住宅)
※⑩小佐野家住宅は非公開

1768年に建てられた御師の家。御師は、富士登拝に訪れる富士講を迎え入れ、食事や宿泊の世話をするとともに布教活動も行い、富士山信仰を支えていました。



⑪船津胎内樹型
※⑫吉田胎内樹型の内部は一般公開されていません

937年の富士山噴火の際に流出した溶岩でできた世界的にも珍しい樹型の一つ。樹型の内部には、富士山の祭神「木花開耶姫命」が祭られています。

芸術の源泉



富士三十六景 凱風快晴
(葛飾北斎) 山梨県立博物館蔵

通称「赤富士」。凱風とは南風のことで、夏の朝、赤みを帯びた富士の山肌が日を受け、さらに赤く輝く現象が起こります。その一瞬を簡潔な構図と色彩で伸びやかに描いています。



富士三十六景 諸人登山
(葛飾北斎) 山梨県立博物館蔵

つえを使って登る者、疲れて腰を下ろす者、岩室で休む者など富士山頂付近の富士講が描かれています。信仰の山としての富士山を主題にしていることが感じ取れます。



富士三十六景 甲州三坂水面
(葛飾北斎) 山梨県立博物館蔵

甲府盆地と河口湖を結ぶ御坂峠からの景色を描いています。実際の富士山が夏の様子であるのに対し、河口湖面に映る逆さ富士には雪が積もっているところがユニークです。